

花鳥風月・俳句

目をこすりホタル見たいと起きて来て

風吹けばところ狭ましと栗の花

落合 敦

ハトカラス毎日二匹えさ食べに

加藤 イサ子

屋内に居て汗も出る大暑かな

田中 良子

夏帽子ウオーキングや猫ひるね

さくらんぼ嬉し想い出多々ありて

石井 トシ子

紫陽花や雨に生氣を貰ふなり

主夫と呼ぶ時代到来盛夏かな

徳永 誠一

風鈴や軒にゆれるよ老の声

春愁や夫の歌声夢で聞く

篠原 高代

ふる里は遠くて近し夏隣

水張りしばかりの代田輝けり

鈴木 伊都美

花手入れ向日葵如く妻の笑み

夕立の返しに虹の贈り物

小野 弘幸

仲持ちの通いし道に若葉風

越智 和人

思いつきり鳴きて去りしやほととぎす

物干しをしつつ眺める竹の秋

天日干し終え豆の種瓶詰す

うぐいすに追われて歩む河川敷

空模様ばかり気にした麦刈日

森本 郁子

近来の出来を信じて水落

昆布出しの露の佃煮母惚ぶ

三浦 シズ子

勉強し遊んで暮らす子供の日

棚田畦みなまがりおり弓のごと

曾我部 福石

網戸ごしホタルが舞いて気も踊る

高橋 学

炎昼やごくりと水の甘きこと

ヨット持つ暮らしに緑の無き人生

河童忌やあちこちに浮くしりこ玉

小田 慶喜

盛りあがる入道雲の力こぶ

向日葵の逆光に立つ存在感

挽きたてのトマト太陽ほとばしる

小田
和子